

国道11號路線 親不知國道改良工事梗概

内務省新潟土木出張所長

伊藤 百世

一、道路の現況（工事施行前の状況）

中部日本を南北に縦貫する脊梁山脈所謂日本アルプスの北走にして日本海に突入する所則ち親不知山塊とす。

青海町より市振村に至る蜿蜒約16㍍の間は斷崖絶壁にあらずんば怒濤相嘯む巨石怪岩にして實にや古の旅人をして親不知子不如の險と嘆嘆せしめたるも宜なりと云ふべし。

明治十六年の頃時の縣令が大英斷を以て此區間に於ける山腹を横ぎり岩盤を切劈きて道路を築造せるもの即ち現國道にして當時にありては新潟縣より富山縣に通ずる唯一の交通機關として充分に其效用を發揮し得たるが如きも時勢の變遷に伴ひ鐵道の開通を見るや國

道を利用するもの漸次其跡を絶ち從て之が管理當局に於ても顧ることなく全く荒廢に委したるを以て國道の名實作はざる現狀を呈するに至りしものなり。

二、改良計畫

本計畫は時局匡救事業として昭和八年度に於て工事費20萬圓を以て國に於て直轄施行を開始し更に翌九年度には工事費185,000圓を追加計上して引續き施行に決し、既に起點青海町大字青海地内より歌外波村大字歌地内に至る延長4㍍8の區間は竣功を告げ、次で本年度(十年度)には工事費15萬圓を以て前記竣功の終點を起點として同村大字外波に至る延長3㍍5に至る區間を施行することとなり現



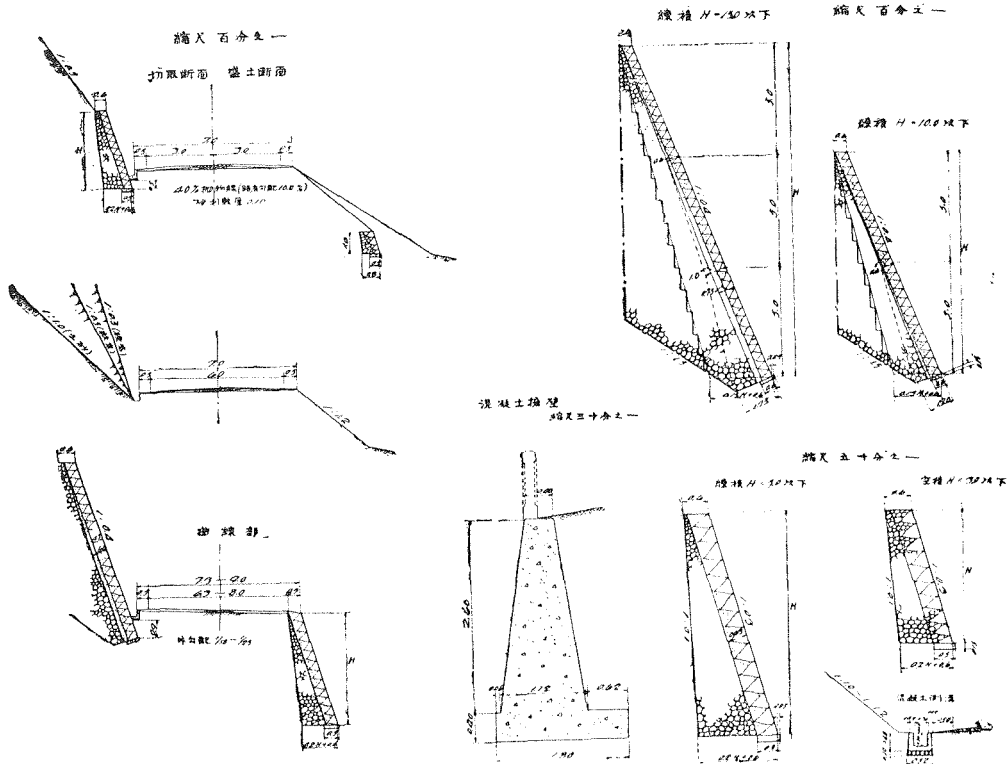
(2) 延長250米に亘る大崩壊箇所の状況・
歌外波村歌地内。

(3) 大崩壊箇所に於ける切取作業・
歌外波村歌地内。



(4) 歌外波村歌地内・
僅かに舊道の片影を認む
るのみ。





(5) 親不知地道横斷定規圖。

在(十年十一月末)其半は竣成を見つある狀況にあり。然して前述外波より市振村終端富山縣界に至る區間は約8軒に過ぎざるを以て將來繼續施行の決定を見んか産業開發に資すること甚大なるべし。

新國道は青海町市街地西端より起り直路海岸に沿ひ青海川を横ぎり鐵道線路に並行して進み約100米にして之を斜に陸橋を以て踰へ現道に會す。夫れより概ね現道に沿ひ歌外波村字歌部落を経て同村外波部落に至る、而して外波川を渡り更に西走すること1,400米にして省線鐵道との平面交叉を避くる爲め山腹を切崩し隧道上を横過し然る後鐵道線路に並行して海岸側に新路線を探り再び現道に合せしめ西走して終點に達するものとす。

道路幅員は有效6米とし50種の路肩部を設け總幅員を7米とす横斷勾配有效幅員間は4

パーセントの拋物線狀とし路肩部は10パーセントの勾配を附せり。路面は砂利敷とす。縱斷勾配は最急6.7パーセント、最緩0.25パーセントとし最小屈曲半徑を20米とす。盛土は側勾配を一割五分法とし脚部に法留空石積を施し切取は三分乃至一割五分法とし切取法面

自昭和八年至昭和十年年度別工事費一覽表

工事費	施行年度		
	八年度	九年度	十年度
工費	161,729	138,410	106,500
土地買收費	3,482	7,730	10,700
物件移轉其他補償費	4,426	1,660	19,800
器械器具費	7,931	9,592	4,500
共濟組合給與金	791	1,000	1,000
雜費	21,641	26,608	7,500
計	200,000	185,000	150,000

軟弱なる箇所には砂防工を施し尙特に高き盛土箇所及深き切取箇所においては練石積擁壁を築き交通上危険の憂ある箇所には自動車保護網を設置するものとす。排水設備は切取箇所においてには割石



(6) 可搬式空気圧搾機を使用レジャックハンマーにて岩磐に穿孔作業。

(7) 歌外波村歌地内・岩磐爆破作業。

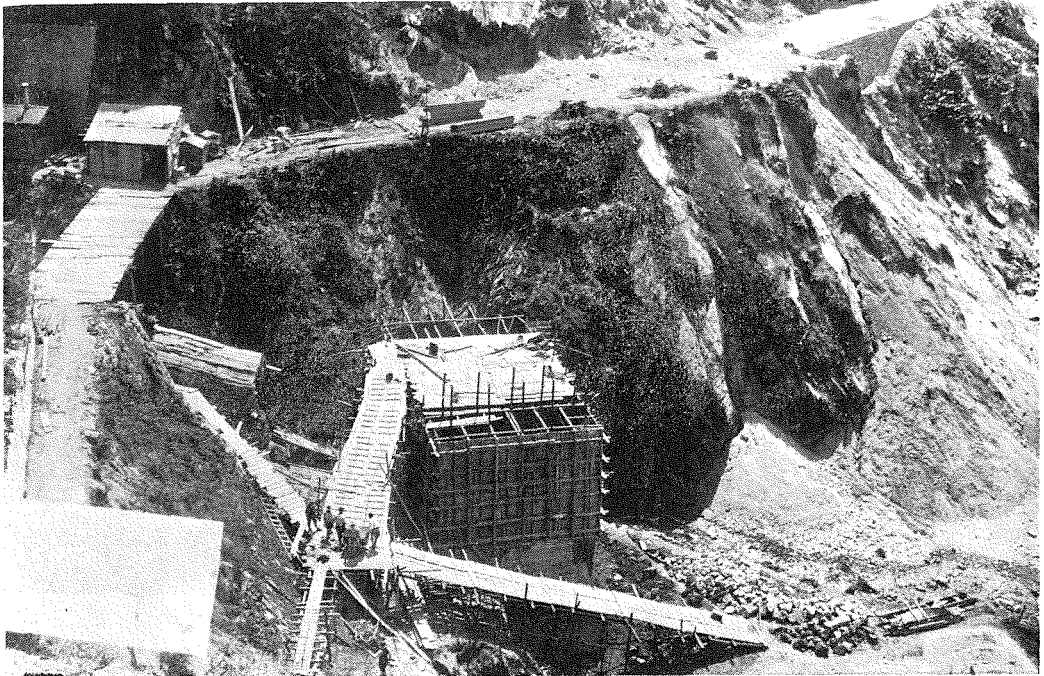
(8) 同上地内、岩磐切取並に崩壊土砂取除作業。

積側溝を設 其他道路を横過して適當箇所に混凝土管を埋設し排水するものとす。

次に年度別既定工事費豫算は別表の如し。



内務省新設土流出場所
昭和三十二年
秋不知産地改良事務所



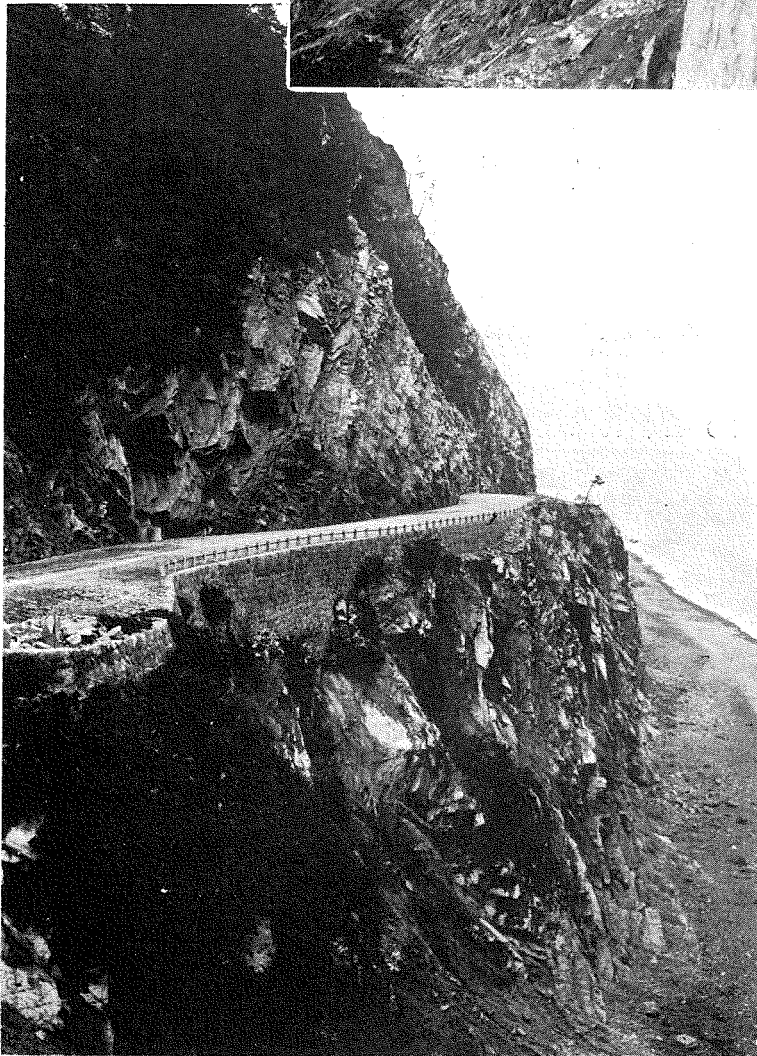
(9) 歌外波村歌地内、洞川橋改築基礎工事状況。

(10) 竣功せる道路の一部、歌外波村歌地内、海岸より約31米高に於ける山腹切取上。





(11) 竣功せる親不知洞門、歌外波村歌地内大雪崩の箇所。



(12) 竣功せる親不知國道の一部(同上地内)